

財団設立5周年にあたって
～ 一人一人が自分の人生を自分らしく生きるために ～

一般財団法人 日本女性財団は、「女性の 生涯の心身と社会的なウェルビーイングを支援する」というテーマを掲げ、2020年8月7日、未曾有のコロナ禍で誕生しました。

コロナ禍の医療現場では、女性たちの困窮が急増し、望まない妊娠や中絶、DV、失業、貧困による栄養失調などが社会問題化しました。

設立1年目には、女性たちへの支援の現状を知るために、支援団体の皆様とオンラインで勉強会を開催。翌年には、フェムシップドクターを中心とした支援活動を開始し、現在に至っています。この5年間で、養成講座を通じて、フェムシップドクターの数は、15名から184名まで増えました。日本女性財団は、包括的に女性の人生を支え、救済して乗せる母船（femship:フェムシップ）をイメージしています。

また、独立行政法人福祉医療機構 WAM 助成事業として、経済的に困窮している女性たちのための医療支援として、子宮頸がん検診や、エコー検査、性感染症検査、緊急避妊薬の支給等を行ってきたほか、独自の支援として、困窮女性の中絶費の一部支援や、性感染症の検査等の医療支援も行ってきました。また、1万人の産後の母親の体調に関するアンケートを実施、このアンケートについては、そのデータを政府に提出、超党派の議員の勉強会などにフェムシップドクターが登壇して問題点を説明するなど母体の健康と維持に尽力しました。その結果、昨年4月には母子手帳に出産後の母親の体調に関するチェック項目や家族からのコメント欄が追加されたことを確認しております。

このほかにも、女性支援を行っている団体や個人と連携して、全国各地に女性支援のプラットフォームを創る活動も積極的に行い、現在、13の地域で172の医療機関が相談窓口となっています。

こうした活動が認められ、2022年10月には、第1回「SDG s JAPAN SCHOR SHIP 岩佐賞」医療の部を受賞することができました。

私たちは、女性支援の認知向上と更なる活動の推進のために、この5周年を機に、8月20日（水）には、日本で初めてとなる、女性支援を包括的な視点で捉えた「女性支援・Well-being Award 2025」を開催する予定です。ウェルビーイングという概念は、今や単なる健康にとどまらず、「一人一人が、自分の人生を自分らしく生きること」です。

今後も、多くの皆様とともに、包括的に女性の人生を支え、女性の心身の健康 および社会的な活躍を後押しし、新しい日本の社会づくりに貢献してまいります。

この場をお借りして、日本女性財団を支えてくださっている企業をはじめとするすべての皆様に、心よりの感謝を申し上げます。今後とも財団では、一人一人が健康で、生きやすい社会になるよう皆様と一緒に femship を動かして参りますので何卒よろしくお願い申し上げます。

たくさんの方に femship に乗っていただくことで、日本社会が大きく動き出しますように。

2025年8月7日

一般財団法人 日本女性財団 代表理事 対馬ルリ子